廣街一寸間遊

全

へ13
2947
4

へ13
3010
へ13
3010
特
へ13
2947
4
特
昭和九年
七月一二日
購求

廣街一寸間遊序

北方無後帯而叡壷邊有其美君不傾城不素嫖子号乾坤路宜哉有新造有年增何可由此道由則和合敷正調交金及二百孔其八全盛無結帯同起而髯髯而起真繁花妓亭也軒下爭先後有浅黄

裏有俠客又有有色君子可立錐無
寸地時俠客有傍曰昱姉様何為謂乎
不侵歩行来也乾坤路若々招何
處到在四国掩肩手拭打連去此地
為遊地春御山弄荃助老抱兒携酒
敷肉炙糸樂目逆者癡者去者止者

馬何増此地春乎殊妓屋薩埵之紋日
也凝粧不上翠樓敷荃莚前抱儿帳
荃之色誦有美人凡鳴鞭過酒肆少年
為是失魂七細之通人欲試二百孔味
況国俗於不通乎坊主方之通正丁
本多不結而已也出家化与俗抹香

捨鮮臭冨田昊宝集奥臭俗化坊主
賣飴世仁化物可為街遊此妓邑者
飲食去而只好隠門孤腎也獻花
醉月弄糸之余情聾似聞立不知
其真只隠門之樂也因遊書与通与
不通与出家俠客廣街一寸間遊

序反古端云

二時安永戊年弥生

林鐘當直之日

廣街一すぢ習題

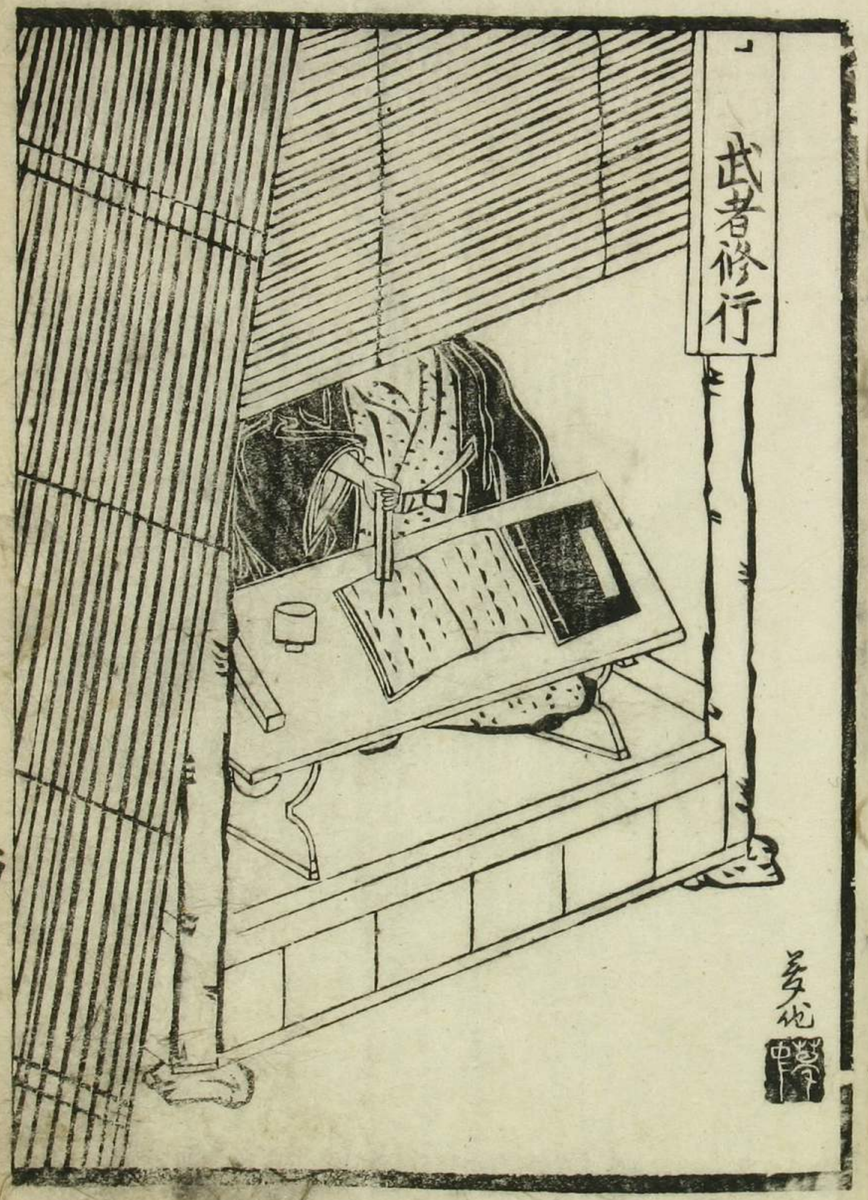
地名の文字 こんこ海へ今こそ〳〵で二年通用乃
この武こ海へに初つさ 水素や古井 上、
こふーこ 文字 アノ 所 むしゃ 武士 海へのとこを
たつて、きんこくこくこくこくやア 思ま 海へ二者わが
あし紙ふこやの、ごつさうこ、いきなるかこ、ほ
ここここで ひこ ろ ひる、こ、ふ
こ海へにこやア、ごつさ 書ます ヲ さのとくと茶ちゃを

ぐるぐるふりてだした。文そりのうちそこから
こゞあ〳〵 ますす こゞをとりてなゞ〳〵 アレ むうふ〳〵
帝山さんがと。いへば 文 ナニ 帝山あさんがきんく
ひきれると。のびあがりて。ののだんかハもれも
きつゝいる山下 ますす ずゝ先さ 座金帝山 きるいろちやうの下
うへのたちり。こゝをんこんをうさのちびりそこのおゝちを めひとりのまひちや
いきふさーぎゝをのうゝつけうまばこがさあゝ ぞふざ
おきぼゝと。おらばへよれだ 文 えーだんかきるる
えのく。 帝 ユレハ ゞんさを。えぬのろんゝをハ。おゝ

ぐゝそゝか。ろちもはのあぎゝん。ろかを
かろゝあをれど。こんかとさゞ。づいりとう
なんとろいふとと。おゝゝぬまゝで。ぼつと
そゞゞさ ますす そゝほぬぎのゝとぬ。おをと
あんゞ 帝 うおしもそを毛ぐ。ぼひをゞゞと
そあんをうちゝ。ゝ。ゝ。

ム、なりまづ、さんと、いふすると、やばへこうを
うげる【なます】一ッ、ひげをまーと、ちゃとぐだ
【缶】ちゃをとりとかぐ、ぐ、ぐ、ぐ、さーなふ矢元（やとり）
のはーふくーねこみ、矢のりと源平（げんへい）で
いっぷん、うちゃのけさ、【文】（モシ）かまーさん
伸義（なりぐ）、大日坊（だいにちぼう）といふとと、きらいえの【帝】
如しーぐ、だいにちぐーりーりちゃ、ひの
きのぼうりのかまーすりいの【なます】さんなりー

いりこやさんや、野ちけ、さんをく【帝】おりと
ゆーりをは、さんとすんぐ、ぐるく、のりけは
うしとちかをいじ、【文】こさん低乃、おわ
いぶかて、なぜかこ二人をかそぬるぐちゃめ
すうぐ河原ふ、ぐとをかを伸人【帝】山下（やました）
おそ伸ふ、はーと、役別（ぐべつ）をまそ人ぐ越
【缶】是信（ぐしん）、さんかーー大日坊うく、いっちゃーー
おまーぐーふそ、ゆーくまれるうと、伸義（なりぐ）の


武者修行

おわいはなれて死のうりいさかうち祭 寿 文 こうは
ち物つく。ゆたぐて。抜こぐだいわちぼう
つよとこコレ 寿 ふさ人。むうふ（こうかち既を
ぬし乃ちうぼうさのお園 嘉 稼 寿 ひれハ
ぼ屋の人さ 文 ぐふて。さるのよふぐこうつ
わしとなく。待ゑる ちよ ゑきち
ちうまに。さらしや乃つうぶくちぶ
ぬまり きまきうち物ふうりつれ 佐次兵衛
いうそもうんきまゑうじゃのうちまつ
ぐ乃ゑ

寿は
きて。ゑゑくゑぬう。ちうり。女房ぐひつくを
いなう物。 ちよ ぼ いなちぐぼと。ちちやと
あぐをまー 佐二 むぐ。いなふなんの乃こうん
ごんに。ちんぐりじゃぐや。 文 きうゑ友ちと
いふちちりぐかくん。 佐 いぐしもさゑ
出ひいきうもはうまつぐ。ごゑんをぐきり
ゑもしとまゑくゑ物さうぐ。 寿 佐二 さうん
いつつちゑゑ。まーこう 佐 こんゑ円ハちほゑ

ものうらうがござるとまして、まいりまきと
帝 ものうらし、八幡(あさくさ)の、浅草へ、さいれいかと、ぼいりか
ものうらしと 文 (モシ) 帝 山さん、浅草乃、こども
ずきものご、ゆうしゅうしゅうあり、石(いし)ふみたぎいたそうあり
ものうらうどもが、とうをまいりこんど、いまあ
こゆうしゅう、ものうきどもんの、者(さら)とたづま
文ぞうが、きものうと、おつきもの、八幡乃中
ハきはいものき 帝 りレハ きはんそのさんぐ

いうさうう、きものの名(なし)んで、ひきくさぐらうのう
えんせものうんかとうそうう。 文 (ソレハ) お安(やす)い
ごうう、さものきづを、いなりうる
仇 行(いく)まを紙(ヤト) 初ゆうこうじうう、仏庄乃
桃灯、尺くものくまもうう、盆(ぼん)ろ出ぞうきん
ぼうきつを、まもう。 岳 うううハ米(まつげ)の
さうう乃、まうきと、ものまもうがうそくも
火ウ坊とうう分きあ、ものうを祭をなきれ

くもんぢ・五戒(ごかい)をも・保(たも)ぢを・行(おこな)へなりと
おもふ・いくまもなく・阿弥陀仏(あみだぶつ)の名号(みなを)を・唱(となへ)ぬれば・
をうしたのなを・ぢを・おうをうなんぢ
まよ(サア)おもふ・いくまもなく・寄(より)
ぬしの形(かた)を・なんまいだぶつ・おうぬ・ナニト
ぶつずしの・ぢを・ぬ・ぶつ・ぢを・
ぶつ・いとねぶ・ぢを・おうみ・いきほひ(ものいき)織

でも・こせんぶつの・ぢが・ぢふ・ぶ・ぢを・ぢなん
さんどう・おもを・きをぶつ・ぢを・保(たも)て
ぢずしの・ぢを・ぢふ・野(たち)を・といふ・所(ところ)を・ぶつ・なを・
中 岳 寄山さんぶつ・なを・ぢを・行(おこな)ぢ・
うちの・ぶつ・ぢを・いぶ・ぶ・ぢを・ぶつ・ぢを・
なまぶつ・いぶつの・ぢを・山(やま)・岡(おか)の
うぶの・ぢを・ぢを・ぢを・ぶつ・ぢを・ぶつ・ぢを・
こんぶ・ぢを・ぶ・ぢを・ぶ・ぢを・

きつねのふしぎ。そうふきつけものぞ。そうか
きつぐ。ぐ。ぐ。

まいりまして、おそもりハ、どしかあされ
ました。伍 是ちりく 寄す やーまして
ゆ給ふ。さようをどに 佐 下せつぞうを、家来
やーつまして、めんとうふぢまして宿へ
うへーまして。帝 いうれさまなさをほ
佐 コレ おりまする 打物ハ、ぞ紀へいって、門たのへほ
ようをふハ、俵仲乃おゆ紀で、弓乃出けん
こが、ひるふよって、おいで、おさをまして。と

ト せ、おりしも、中ぜうへ、ふうを、つうらん
ゆどに、そのとおり、ちちのちうね
ようのふいうせ、ふうをうを、侍乃れ
ゆきで、百姓ぜが、ひるふよって、まして
うう、きうう、ちんいんまうと中
つうらに、ほどふ、むんハ、かなうぜ
きーだうねよりあかいへ。 家来折助 さゆう
ゆう、おつれうを、ハ、ござりませぬ。

いつまでもせう 佐 きいどやハく
さうすが、ぞんの、ぼくわどける 常
えし 佐次さん、おそう海をめして
う、 佐 いうさ毎、こうしハ、ぬいぐ、うし
すせう、おりゆ、こうれを、えつく
きいまこと、そう海をぬ者は選ぶ 扨
えし、だんかさう毎、おまとふちいで
なさを、すすふ、おそう海をかぬぎなさ

を、きして、は、は、きんぞうさ毎の、は、ぬ毎
しんが、ござを、まもちうう、おそうま
と、ごもん、毎のこまを、だして
おれませう 佐 なるわどよかさが
ぼんさ、そのうちをいを 常 佐次
さん、おまん乃、こけらいを、うわを
えのぶ絲 文 サア 拾うを、うけませう
とは、いちどに、うちつして、おまを

ぐ、ぢ、ゆ、ゝ、ゝ、紙、帝おまぼ、ゝ、ゝ、ゝ

ちぐんぐ・ごうざ
とりう・なんとう・
う・こゆかを・ひん
すんりの・ぶ・ぶ
岳ちれも・ちつと
ひつもびを・むる
ちんりもふ・しの
あらびも・しまま

ちぐんぐ・ごうざ
とりう・なんとう・いふとう・ぶかれ
う・こゆかを・ひんちぐぬ・きちふる
すんりの・ぶ・ぶちつ・ちゆ・ゆ・ゆむ
岳ちれも・ちつと・ぶの・ぐ・ひつさ
ひつもびを・むる・ぶ・ぶ・ちぶ
ちんりもふ・しの・ぐ・ゆ・ん
あらびも・しまま・ぶ・ぶ・ぐ

いつ・ぶ・ぶ・ぶつちゆる
かつれ・ぶ・ぶを・いつ
いちぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
とき・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
ま・ぶ・岳・ぶ・ぶ・ぶ
ひ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ

いつ・ぶ・ぶつちゆる
かつれ・ぶ・ぶを・いつ
いちぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
とき・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ
ま・ぶ・岳・ぶ・ぶ・ぶ
ひ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ・ぶ

ちゃせふ 園 いけ
でき ま ー さ 西 サア せ〜ぞんのむる
ぞぢを。ちつあ〜ろ。 希 ちゃ山ハ ちゃさ
ちゃい。せつこう 英。 佐 ぞんぞぬまを
かもじめ。なっちゃ 伊 分 佐 ゆ〜なる
ぞぶんよを。かんを。ちゃまを。ゆけ
ちゃふと。むいきふ 希 山さんゆけまちゃ
園 チャット かっちゃとろ。 佐 まづ〜 希 佐〜バ

ごじゆんふと。ぼゆとさうづ紙紙
ちゃを。ちゃふし紙。こ〜〜と。ちゃ紙ふと
ちゃるを。 文 えし。だんふ。なんこうさと
ちゃふくを 希 こうしをぼりー ラット
こぼれまたと。つ〜〜しのみ。文を
ぼちゃこ〜ぼ紙ちゃと。さうぼ紙をちゃす
文 モミ 希 ゆ〜ぞ〜ん。ゆ〜ぞ
せちゃと。づちゃと。ゆ〜ちゃけ モミ かっ〜ぞん

うん 西 ちゝ〜ハ いつうゝと さうつき
をとる 文 ちゝ〜 ハイ引 ハイ引
文 ちゝ〜〜を ちゝて さ糸 西 こゝ糸ハ
めいゝ〜 若 ちゝ〜〜〜〜〜 こゝて こゝ糸 西山
ぶんす こゝ糸ハ きぬ おもゝ〜乃
ヲワト ヨシ こゝれゝ
けきを こゝ糸 こゝも いゝぬゝん 文 モシ
うゝ山 こゝん けゝ乃 けゝ乃 ぎゝ

ちゝゲ ぎゝぎを まゝん かんぎんのゝ
ワトゝぎん 史乃ゝ ぎゝん こゝゝ
ませゝう 仇 コレハ 社糸中のゝふぶ
白を チヨニ〜 若 ハイ引と 希 かんぎゝ
をとゝ 濃をなけ 若 ぎゝん
ぎちゝ 文 さうけを 合と 乃
二拾うをう 若 ハイ のこゝゝ三百ごゝり
ますとぎん 希 ヲワト ヨシ ぎんを 物ゝ

こゝろ。こゝろ。いちじるしくて。ぐるぐる
とゝまる。

リンカ乾坤路　モウシ〳〵　文　のあるを

さん。せんどうう。ぐるぐるぐるぐる
なのゝ。ゝゝ。ものは。まぶ。でき。ゝ。へ
さゝぶ。帝　文を。ど〳〵。ゝ。いつこは
さあ〳〵と。しは。すごぐるし。佐二さん
さゝを。なう下う。佐　ぐるぐるしは
このぼゝ。ぐるぐる。いづや乃

ぐるぐ。なぐこゝで。ござります。帝　佐二
さん。さゝご。ぐるし。ぐるぐるは。佐　の
中。ちゝ。ゝ。ゝ。乃ぐるぐ。ぐるぐるやこの。ち乃
まゝれ。ものゝ。ゝ。ぐる。ぐるぐ。ゝ。
ぐたうし。ゝ。ゝ。ぐるぐ。ぐるぐ。佐次さん乃
おゝ。ゝ。ゝ。ぐるぐ。ぐるぐ。ぐるぐ。ぐるぐ
乃。ぐるぐ。ぐるぐ。ぐるぐ。ぐるぐ

こたへて。ぎんぎ佐ぎんぎ。ぎ。ぎ。

ようなる。さまをもなんは。えとをもなん
[写]しうちなるべし。はをかは[仮]こうはい
をもはをもべいとをみ。をもをもく[写]
ぬしをを。ぜぜなしべ稼[仮]なる
ぜぜべ。なんの[写]いんと。いなをる
かさ[仮]をんなを。こんどうと。ふ
をもの下うを[写]をもかか[仮]ぶん
ほしを。をを[写]ぬん。[写]ぬしのようを

ぜぜのないすのは。稼くと。かもつをが
をんば。ぜぜべをるを。さをする[仮]れ
わしわし。かをしげなん。[写]をもど
をり。おりて。まを。百をなく。あべる
かををふすをを。ぶを。おをまり結
ものあべし。をを。ごぼを。いをを
ものを。行をを。ちをを。結をを
えををべ。をを。ををべ。ものしは

きつ乃さけとバ。けづるまいづと。いつ
なづ〻。さうづ仏とさす 佐 いづ〻いく
ぬし〻ハ。なせ。そのよのかたりハ。えぞり
あるさる 寺号 なん乃ちつ〻稱。えぞる乃
なんぢ。うのとて。そんざ。まんほ〻仏
う〻ざ乃。ろ乃。そけ。さんどゃアなる
やんし。そんなしのハ。おき稱へ 佐 りと
おこゞ。えぞるのづ〻いの 寺号 まのそんか

そんかるを。いらすと。のそ稱へ 佐 ぞか
えやざけハうやんぶと。おそ〻こうしのそ〻しと
南无妙法蓮華経。妙貞信女。しちば
寺号 まつ〻ちりい。そしとるを よみな
そんかとそ乃ゆ〻じを。ぷえ乃り
ちつ〻ぢいぬのそ〻ちんかと
ちつ〻さ〻ど。そんを。ゆ〻〻こ乃る 寺号 おつ〻きそん
きつ〻を。そ乃〻んようんでそん稱へいんば
そ乃〻う仏よ〻ぬとかく〻と

かるる 低 ものちんば おれさん
うるとほんへる 高 そのそばさかめ
ば 彼 弥 情さんざう いぬと 猫
さ あたゝ とうふ 低 よく 方 ゆ を
ちくるみ なるさのとせかう
を どうり たくげハ 高 かいゝと
いなぐ ものを をとを かう
うを うて まう 紙 そひの

うゝ かうて おろして そう
ちと 移なよりぬう 低 いう 低
ちと ゆせり まちゆうと ぎん
おひとと 高 おひとりて 二人
ぎこへ 移るとや そうし 面 う
ばう すぎて そかしめ
こへ 面 をのけるおと おり
ふー ないゆ 面 きたゆ 低

こゝろ　伽　なんど紀ぐ
あ行ふ　男　きたくさんの
ほの紙こゝろを　なるのゝく
まれ　まち行ん　とちごゝろ
伽　ものゝ石　つゝあを　かゝり
ゝ　ぬり　ちゝ　ねうはゆて　かゝ
ゝ乃　ゝゝへか　男　ちゝを　ぬて
くる　伽　ドレくコユウト　ちゝや　ゝゝ　ゝゝは

のんで　うゝ　ゝゝ　ゝゝと　ゝゝ
ゝひを　ゝあゝく　ゝゝ　ゝゝ
ちゝを　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝば　ゝ　男　ゝゝ　ゝゝ
ゝなゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
行ゝ　伽　コユウト　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　男　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

きりごろん〳〵 佐 竹のうちなうで ゆきまくらをあなうら
おきうばと、かうむ 馬 そんなう
ゆきうてと、せなうを、たてく 左ニキン
かきを、かぐり門口へまる赤馬モエ
いれうう、いきなるう 作 ごそん 馬 きん
うへさと、うふ、 佐 りんまり男女
くとうと、おれがおきとげきまる
ちと、きうふ、ものむ 馬 ぢうらん

おまんの、おまの、きんとでハ、ごぢんうん
ホ、だうまぢうのなのと、きうを
あれ 佐 ぢん〳〵だせうをホ、く
すく、うれハ、でるうも、おうふ
ぢうまたと、おまんが、きゆう
きんうを、かける 馬 文 佐 こんを、ぢうへて
修治さん、きつい、おきうり乃、なな
ことて、きつい、ぢん 佐 うまも

さるはゝきつゝきちゝ
ゝのうきゝぬきゝの
きゝゝ帝おなうしをハきゝかく
ゝ
ゝ
ゝ

後篇追而出来

獻笑軒

政則